

物流現場の技術革新・DXを加速する実証実験拠点の取り組みをご紹介

駐日インド大使が「鴻池技術研究所イノベーションセンター」※1 視察

2022年6月29日(水)、駐日インド大使館のSanjay Kumar Verma大使とAbhishek Goel政治・商務担当官が、鴻池運輸株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役会長兼社長執行役員 鴻池 忠彦、以下 鴻池運輸)の鴻池技術研究所イノベーションセンター(以下 技研 IC)を視察されました。

これは、鴻池運輸が注力事業に位置付けているインド事業※2を Verma 大使と Goel 政治・商務担当官へ先だっでご説明した際に、KONOIKE グループの技術革新・DX の取り組みを知っていただく機会として企画提案し、実現したものです。

技研 IC は、昨年3月に東京レールゲート WEST 棟内の当社物流拠点内の一角に開設した、最新自動化機器の開発・導入実験や、国内外のスタートアップ技術の実証実験など、物流現場における技術革新・DX を加速させるためのオープンイノベーション拠点です。

※1 関連報道発表 2021年3月3日 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/9025/tdnet/1940926/00.pdf>

※2 鴻池運輸 Web サイト「インド事業紹介」 <https://www.konoike.net/logistics/international/india.html>

視察当日は、取締役専務執行役員 鴻池 忠嗣が、鴻池運輸の「現場力」の強化や労働力不足への対応に向けた技術革新・DX 推進の意義を説明。「技術で、人が、高みを目指す」という当社の「2030年ビジョン」に則した、最新技術と現場で培われてきた職人の技術との掛け合わせによる独自の技術革新・DX の考え方や、具体的な取り組みの例として、技研 IC と OSARO 社で進めているピッキングロボットと AMR(自律走行搬送ロボット)の連携による倉庫自動化オペレーションの共同実験※3などをご紹介しました。

Verma 大使と Goel 政治・商務担当官は、KONOIKE グループの多種多様な現場に自動化機器を導入することの難しさや、実証実験で得たデータ活用方法などに特に関心を持たれ、技研 IC のメンバーと活発な意見交換を交わされました。

※3 関連報道発表 2022年2月21日 <https://ssl4.eir-parts.net/doc/9025/tdnet/2088743/00.pdf>

■ 視察の様子

(OSARO 社との共同実験についてご紹介)

■ 右より、鴻池専務、Verma 大使、則竹技術革新推進部長、Goel 政治・商務担当官、鶴原常務



■ 鴻池運輸株式会社の概要は、弊社 Web サイトをご覧ください。[\(https://www.konoike.net/\)](https://www.konoike.net/)

KONOIKE グループは、物流の枠を超え、製造、医療、空港業務などを通じ、社会課題の解決と革新に挑戦し続ける、プロフェッショナルサービス集団です。

商号	鴻池運輸株式会社 ※東証プライム市場	代表者	代表取締役会長兼社長執行役員 鴻池 忠彦
大阪本社	大阪市中央区伏見町 4-3-9	東京本社	東京都中央区銀座6-10-1
創業	1880（明治13）年5月	会社設立	1945（昭和20）年5月30日
資本金	1,723百万円	従業員数	約23,000名（連結） ※臨時雇用者数を含む
売上高	301,373百万円（連結）	営業利益	10,288百万円（連結）
事業内容	請負サービス(製造業界向け、サービス業界向け)、物流サービス(国内物流、国際物流)		

※資本金、従業員数、売上高、営業利益：2022年3月31日現在。

●本ニュースリリースに記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。